

岩谷産業株式会社（8088）2025年3月期中間決算説明会 質疑応答要旨

開催日時：2024年11月20日（水）10時30分～11時30分

Q 1. 通期の業績見通しは据え置きとしているが、セグメントごとの状況について教えて欲しい。

A 1. 総合エネルギー事業については、L P ガスの市況要因が前年と比較し40億円程度のプラスとなり、市況要因を除く営業利益では3億円の増益となった。また、カーボンニュートラル関連の設備販売も好調で、順調に進捗している。

産業ガス・機械事業については、中国においてヘリウムの販売が苦戦している。ロシア・ウクライナ紛争の影響で、欧米企業がロシア産ヘリウムの調達を控えたことにより、中国市場へ大量に流入したことに加え、中国国内の景気が下降傾向となったことで、市況が軟化した。中国での販売数量は落ち込んでいないが、販売単価が下落している。また、現状、中国での販売単価は下げ止まったが、インドや東南アジアに影響が波及しており、引き続き、厳しい状況にある。

マテリアル事業は、売上高が減収となったが、主な要因は、リチウム・コバルトなど、次世代自動車向け二次電池材料の市況価格が下落したためである。一方で、チタン・ジルコンサンドの鉱産物に加え、P E T 樹脂やバイオマス、金属製品等は順調に推移しており、マテリアル事業全体では期初の予想通りに進捗している。

Q 2. L P ガスの直売顧客数については上期も増加しており、先日アイエスジー（株）の買収も発表されたが、現在のM & A市場の環境について教えて欲しい。

A 2. L P ガス小売事業者の事業継承を検討する動きは加速すると見ている。業界全体としては、少子高齢化、単位消費量の減少など、市場規模は縮小している中、小売事業者側では、後継者不足や、保安・I T 投資への負担が課題となっていることが背景にある。

また、液石法の省令改正により、料金体系の透明化、集合住宅への過度な投資・利益供与といった業界の問題に対して、行政から規制が入った。今後は、価格やサービスの質が問われる環境となり、当社の強みがより発揮できることから、M & Aによる顧客拡大に引き続き取り組んでいく。

Q 3. アイエスジー（株）について、LP ガスの直売顧客数と今後の事業展開を教えて欲しい。

A 3. アイエスジー(株)は、千葉県、茨城県を中心にL P ガス事業を行っており、さらには電気、リフォーム、訪問看護などにも取り組まれている。また、当社の特約店組織であるマルサ会の会員であり、これまでも取引があった。

顧客数については、契約完了までに精査し確認する予定である。今後は、両社の充填・配送機能を活かした物流合理化や業務効率化に加え、関東・首都圏で積極的な営業展開を図ることで、様々なシナジーを発揮できると期待している。

Q 4. 豪州でのグリーン水素プロジェクトから一部の企業が撤退するとの報道があったが、現在の状況と今後の方向性について教えて欲しい。

A 4. 本プロジェクトに関しては、現在、F E E Dを進めており、当初のスケジュール通りである。当社としては、最終的な費用の算定を踏まえて、来年の中ごろまでに、最終的な投資判断を行いたいと考えている。本プロジェクトは、豪州でも政府に対して補助金を申請しており、非常に注目されている。他にも世界各国で様々な計画が動き始めているが、当社としては、豪州を優先と考えており、2030年以降のサプライチェーンの調達先として考えている。

Q 5. 水素社会推進法が施行され、値差支援などに向けて、政府や各水素事業会社に取り組んでいるところだが、現在の状況について教えて欲しい。

A 5. 当社は、グリーンイノベーション基金事業として、川崎重工(株)との合併企業である日本水素エネルギー(株)を通じて液化水素によるC O 2フリー水素サプライチェーン商用化実証を行っている。

水素社会推進法は10月に施行され、価格差に着目した支援制度、いわゆる値差補填制度は11月末に募集が開始され、2025年3月末が締切となる。その間に、需要・供給計画を併せて申請するルールになっており、2025年後半には採用事業者が決定する予定である。当社は豪州・スタンウェル社との再生可能エネルギーから水素を製造するプロジェクトにも取り組んでおり、2030年には海外から水素を調達することを計画している。また、その他のプロジェクトについても、申請を検討していく予定である。

Q 6. 大阪・関西万博で運航される水素燃料電池船「まほろば」の状況を教えて欲しい。

A 6. 「まほろば」については、10月に完成し、建造していた広島から大阪まで曳航してきた。同船には、燃料電池とバッテリーが積載されており、関西電力(株)の南港発電所内に完成した設備で充填をしていく。船体は、全長33メートル、幅8メートルの2階建てで、最大150人の乗船が可能である。航路としては、大阪の中之島ゲートから、ユニバーサルシティポートを経由し、万博会場の夢洲まで、40分程度の航行を予定している。今後の予定は、11月中旬に認証検査を受けた後、テスト航行を行い、4月からの万博運航に備える予定にしている。

Q 7. コスモエネルギーホールディングス(株)(以下、コスモエネルギーHDと記載)との資本業務提携の中で、両社の顧客基盤を活用するとあるが、お互いの事業のなかでどのような融合を検討しているのか。

A 7. 当社のLPガス小売事業におけるサービス拡充を想定している。例えば、コスモエネルギーHDが力を入れている「マイカーリース」では、地方での需要が高いため、当社のLPガスの顧客基盤が活用できる。また、「コスモでんき」や、グリーン電力の販売など、一般顧客のみならず、工業用の取引先も対象とすることで、様々な相乗効果が期待できる。

Q 8. コスモエネルギーHDとの資本業務提携の中で、水素の製造設備を建設することだが、両社の投資額はどれぐらいを想定しているのか。一部報道で、投資金額は300億円程度とあったが相違ないか。また、本投資によるPLAN27の投資計画に含まれているのか。

A 8. 提携推進委員会において、コスモ石油(株)の製油所に、水素の製造設備を建設することを検討し、千葉を候補地として進めることとなった。具体的な製造能力や、投資範囲については、これから検討していく。投資規模については、検討段階のため決まっていないが、当社が液化設備を新たに建設する場合、300億円程度となる。なお、PLAN27の投資計画では、液化水素の第4プラントの建設を計画に含めており、今回の案件による大きな変更はない。

Q 9. コスモ石油(株)の千葉製油所内での水素製造について、スケジュールについて教えて欲しい。

A 9. コスモ石油(株)の千葉製油所でのプラント建設は、早くも2020年代後半に立ち上がるものと想定している。

注意事項：

将来にわたる部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。実際の業績等につきましては、予想と異なる結果と成りうることを十分にご認識の上ご活用ください。